

真夏のクリスマスを初体験



圧巻だった New Year 花火

人文学部人文コミュニケーション学科 3年 田山翔子

シドニー工科大学（UTS）に留学中の田山翔子です。日本はまだまだ寒い日が続いているかと思いますがいかがでしょうか。南半球のオーストラリアは日本と季節が逆で、暑い日々が続いています。



前期を終えた大学は、11月から夏休みに入りました。留学中に知り合った海外や邦人の留学生の友人らと海水浴でビーチを訪れ、国内旅行に行くなど留学生活を楽しんでいます。

日本とは正反対の真夏に迎えるクリスマスとお正月をつい先日、初めて過ごしました。雪がちらつき、厳しい寒さの中で迎えるクリスマスや元旦ではありません。季節に違和感があり、なんとなく変な気分でした。

雪はもちろん降りません。夜空にキラキラ輝くクリスマスツリーやその飾りのイルミネーションを見ようにも、日が長く、とっぷり日が暮れるまで時間かかるため、あまり盛り上がりません。「日本の方がいいかな」と、あらためて感じました。

もっとも、クリスマスにサンタの帽子をかぶって水着姿で、ビーチで友達らと騒いだのは日本にはない体験だったので、とても嬉しかったです。

前学期は、Australian Language and Culture Courseでオーストラリアの文化や環境、IELTS対策に関する勉強をしました。UTSの授業はもちろんすべて英語です。先生方が丁寧に接してくださったので、「付いていくのが大変」とはあまり感じませんでした。



ただ、期末レポートのテーマや内容を決めて、すべて英語で書くのは大変労力のいる作業でも苦勞しました。UTS生の前で発表する期末レポートのプレゼンテーションは、非常に緊張しましたが、クラスの友達と助け合い、先生方にアドバイスをいただき、何とか乗り越えることが出来ました。

元旦は、お雑煮を作り、友達らと食べ、日本に思いを馳せました。シドニーには、アジアンショップがたくさんあり、和食に使われる食材や調味料などの入手が可能です。日本食が恋しくなった時に買い出しに出かけ、自分でよく作っています。おせち料理がなくても、せめてお雑煮は、と思いこしらえたのですが、久々の日本に大感動でした。



大晦日には世界的にも超有名なシドニーのニューイヤー花火に出かけました。とにかく大勢の人が集まるので場所取りも一苦労。ニューイヤーのカウントダウンで日が変わった直後にそれぞれ離れた7か所の花火台からシドニー湾へ向けて一斉に打ち上げられる花火の轟音と満天の夜空に繰り広げられる光のイベントは、まさに圧巻。

赤、青、黄色に輝く花火の閃光の下に浮き上がるハーバーブリッジやオペラハウスもまた素晴らしい味わいで、友人らと一緒に感動しました。仕掛け花火などは、同午後9時頃から散発的にみられますが、夏の一番暑い盛りの中で汗をかきかき、1日かけて友人らと場所取りをしたかいが本当にありました。とても楽しく、思い出に深く残る体験でした。機会を作ってまた、訪れたいです。

11月から始まった夏休みは、実は、3月の半ばまで続きます。勉強ばかりでは飽きてしまいます。地球のへソなどと形容されるエアースロック（写真）などへ旅行すると今度は、お金を使ってしまう。家計の埋め合わせのため日本食レストランでアルバイトを最近始めました。

お客様とうまくコミュニケーションがとれるかなど当初は、不安だけが先に立ちました。「窮すれば通じる」、何とかなるものです。周りのスタッフに助けをもらいながら楽しくやっています。

驚いたのが、ほとんどがお箸を使えるということでした。日本人並みに器用に使っている姿にいたく感心しました。海外でのバイトは得難い経験だと思います。皆さんもぜひ、オーストラリアに留学したら勉強に支障がない程度にチャレンジしたらどうでしょうか。



3月からは新学期。今まで以上に力を入れて後悔をしないように頑張ります。残りの半年は、あっという間に終わってしまうような気がします。「本当に良かった」と振り返ることができる充実した留学にするために、受け身にならずもっと積極的に参加していく積りです。

帰国後、成長した姿を見てもらえるのを楽しみにしています。体に気をつけ、皆さん楽しい春休みをお過ごしください。

(終)

